

# 別添1

国営海の中道海浜公園の魅力向上に向けた  
マーケットサウンディング調査

**本公園の概要、調査の目的等**

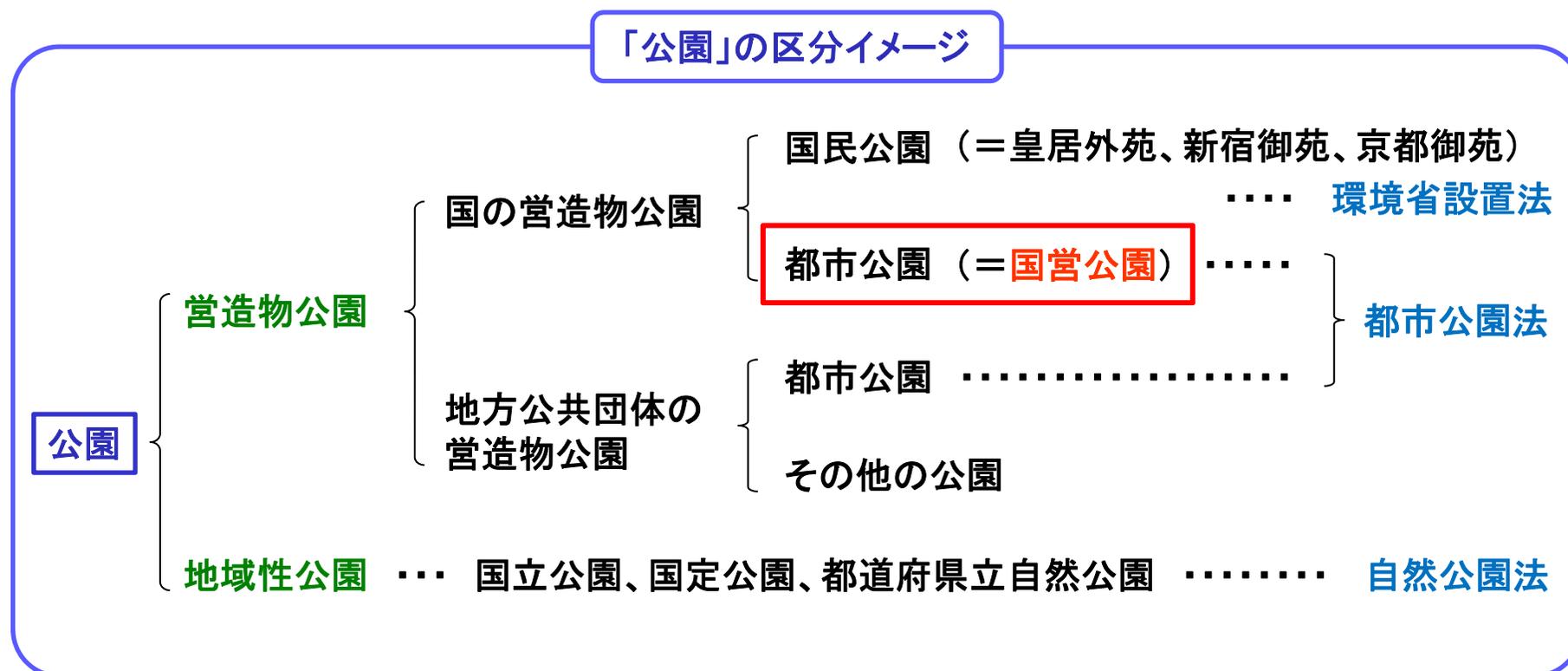
# ～本公園の概要～

# 国営公園とは

## 国営公園の位置づけ

- いわゆる「公園」には、大きく分けて都市公園に代表される**営造物公園**と、国立公園に代表される**地域性公園**があります。
- 国営公園は、国が整備・管理する都市公園です。

### 「公園」の区分イメージ



## 国営公園の種類

### ●イ号国営公園

ひとつの都府県の区域を超えた広域の見地から設置される公園

### ◎ロ号国営公園

国家的な記念事業や我が国固有の文化的資産を保存、活用するために設置される公園

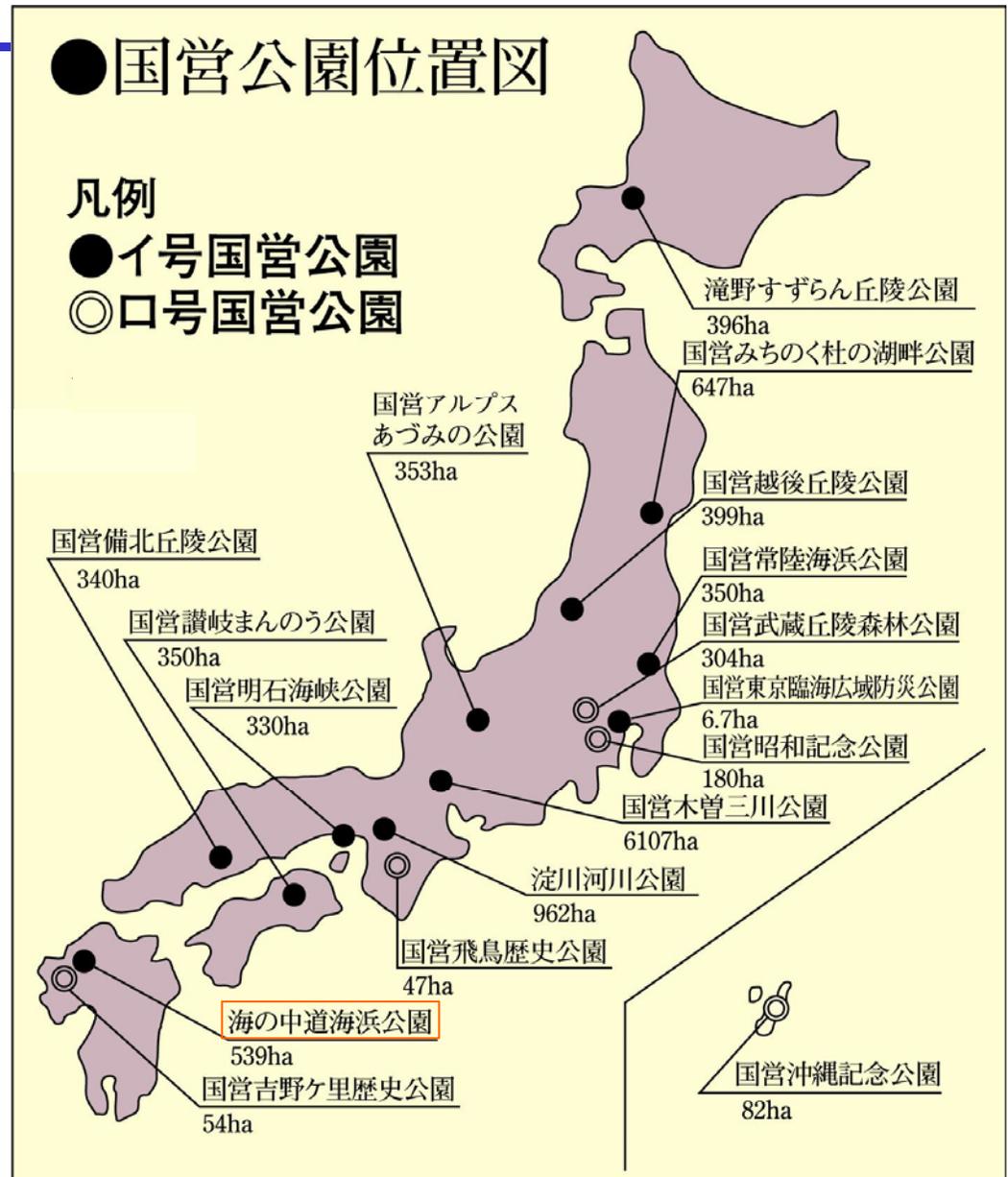
国営公園については、都市公園法第2条第2号イ及びロで定義されている。

国営公園は、現在、全国で17カ所が開園

## ●国営公園位置図

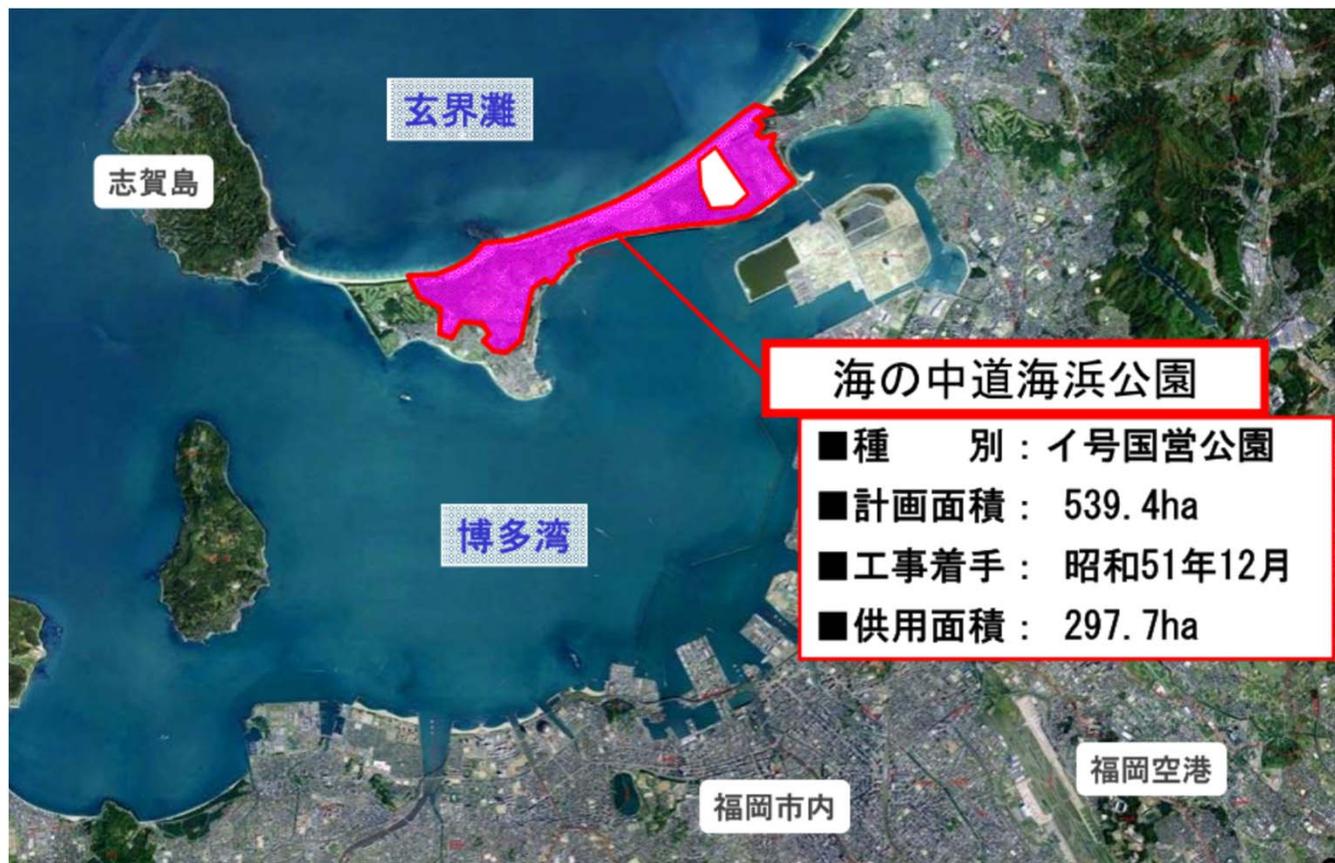
凡例

- イ号国営公園
- ◎ロ号国営公園



# 海の中道海浜公園の位置

- 本公園は、福岡市東区の博多湾と玄界灘を隔てる半島、通称「海の中道」の中央部約6 kmの区間に、広さ約540haにわたって位置しています。



# 本公園の設計の基本方針

## 【a 社会条件に対して】

- 本公園は、福岡市のレクリエーション一大拠点として位置付けると同時に、北部九州圏域の広域緑地系統の一環として位置づけます。すなわち、日帰り利用を主体としながらも、宿泊利用も考慮します。
- 隣接、近隣地域への本公園建設が与える影響を十分検討して、共存関係が成立する為の条件を配慮しながら計画策定を進めています。

## 【b 自然条件に対して】

- 新たなランドスケープ造成にあたっては、既存の植生、地質、土壌条件等を十分考慮しています。全域が地表を除いて砂地であるため、土壌改良又は土壌置換を行なうことにより、植栽に適した土壌条件をつくっています。
- 臨海性の植生を改善補強し、二次林の形成を促進しつつ、緑地帯を拡大発展させています。
- 淡水と塩水の自然的バランスを破壊しないように池の造成を考慮しています。

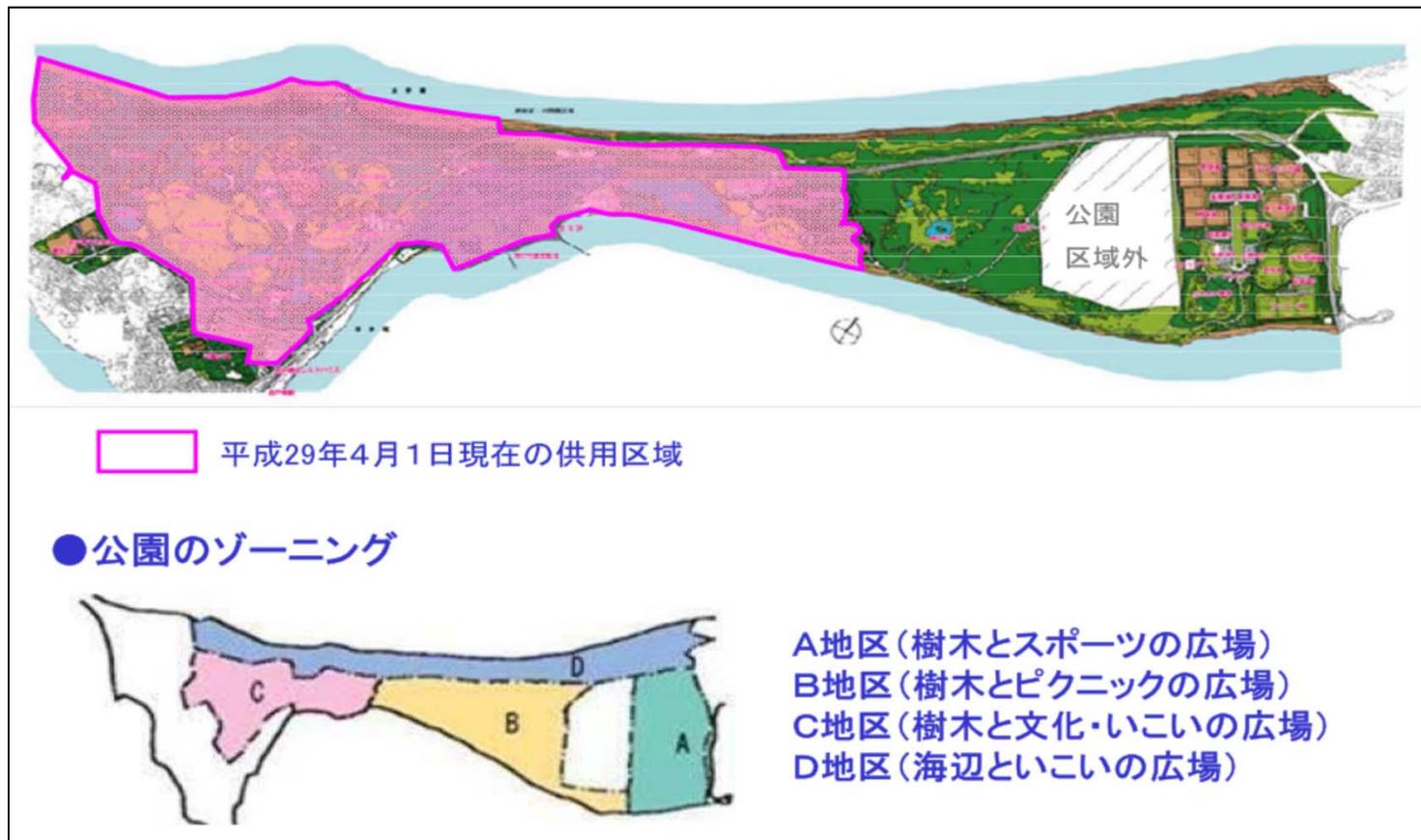
# 本公園の設計の基本方針

## 【c 計画条件に対して】

- 540haという面積のスケールメリットを最大限に生かしながら、自然公園的な性格をベースにオールシーズン利用可能な施設計画を行っています。
- 利用需要の多い夏季の海岸レクリエーション利用に対しては特別に考慮しています。
- 北から吹く潮風の防風処置を植栽や盛土により構じています。
- 高齢者及び障害者を含むすべての人が気軽に訪れ、それぞれの目的を果たせるよう、施設の利用のしやすさ、安全性には十分な配慮をしています。それに基づいて、すべての人が参加し、楽しめる企画・運営等のソフト面についても充実させています。

# 本公園の全体計画

- 本公園は、昭和51年から事業に着手しており、計画面積539.4haのうち、**297.7haを（約55%）**を併用しています。
- 公園全体をA～Dの4つの地区に**ゾーニング**してそれぞれの特徴を活かした整備、管理を行っています。



# 本公園の主要な公園施設

○ 本公園では、サンシャインプール、マリンワールド海の中道（水族館）、多種多様な遊具など、多様なレクリエーションに対応するための施設の整備を推進しています。

**青少年海の家**  
雄大な玄界灘に面し、研修・宿泊棟やキャンプ場などを有する社会教育施設。

**動物の森**  
動物と直接ふれあえることの出来る動物園。

**サンシャインプール**  
6つの異なるプールを備える西日本最大規模のレジャープール。

**ティキャンプ場**  
博多湾を眺めながらバーベキューが楽しめる施設。

**大芝生広場**  
広大な芝生の広場は各種スポーツ大会など、様々なレクリエーションが楽しめる自由な空間。

**子供の広場・花栈敷**  
小さな子供たちのための遊具やアスレチックなどを備えた自然と親しみ、のびのびと自由に遊べる空間。花栈敷では大規模な花修景を展開。

**マリンワールド海の中道**  
イルカやアシカのショー、巨大なシロワニが泳ぐパノラマ大水槽など見どころがいっぱいの水族館。

**ルイガンズ**  
全室博多湾に面し、リゾートライフを演出する様々な施設がそろうホテル。

**環境共生の森**  
森づくりを行うエリアに位置づけ、地域の皆さんと協働で苗木を植えている。

# 本公園の主要なイベント等

○ 本公園では、野外コンサート、クロスカントリー日本選手権、環境共生の森プログラム等**多種多様なイベント**が開催されています。

## 野外コンサート

### 夏の代表的なイベント

- ・公園内の野外劇場は福岡市内で最大規模。  
野外劇場：2万人収容可能  
すり鉢状の客席部：1.6ha  
平成29年度は7/22～23開催（2日間で32千人を動員）
- ・これまで数々の野外コンサートを実施。  
浜田省吾、南こうせつ、矢沢永吉、サザンオールスターズなどビックネームのアーティストも多い。



〈野外コンサート〉

## フラワーピクニック2017

### 代表的な春の花のイベント

- ・H29.3.25～5.7（44日間）
- ・期間中入園者数 約26万1千人
- ・花リレー  
（スイセン・サクラ・チューリップ・ネモフィラ・リビングストーンデージー 等）



〈博多織花壇〉(カナール)

〈150万本のネモフィラ〉(花の丘)



〈20万球のチューリップ・ムスカリ〉  
〈虹の花壇など〉



## クロスカントリー日本選手権

### 日本陸連主催大会として最高のランク付けの選手権大会

- ・毎年2月下旬あるいは3月上旬に開催
- ・1987年に始まり、世界クロスカントリー選手権大会の日本代表選考会も兼ねて開催
- ・シニア種目には中長距離種目の日本人有力選手が招待される。



〈クロスカントリー日本選手権〉

## 環境共生の森（みらいの森）プログラム

### H22.3.19に開園したエリアにおけるプログラム

- ・森づくりや里山づくりの体験イベントや自然観察等のプログラムを提供。
- ・運営はボランティアとの協働により実施。

〈みんなで森をつくろう〉



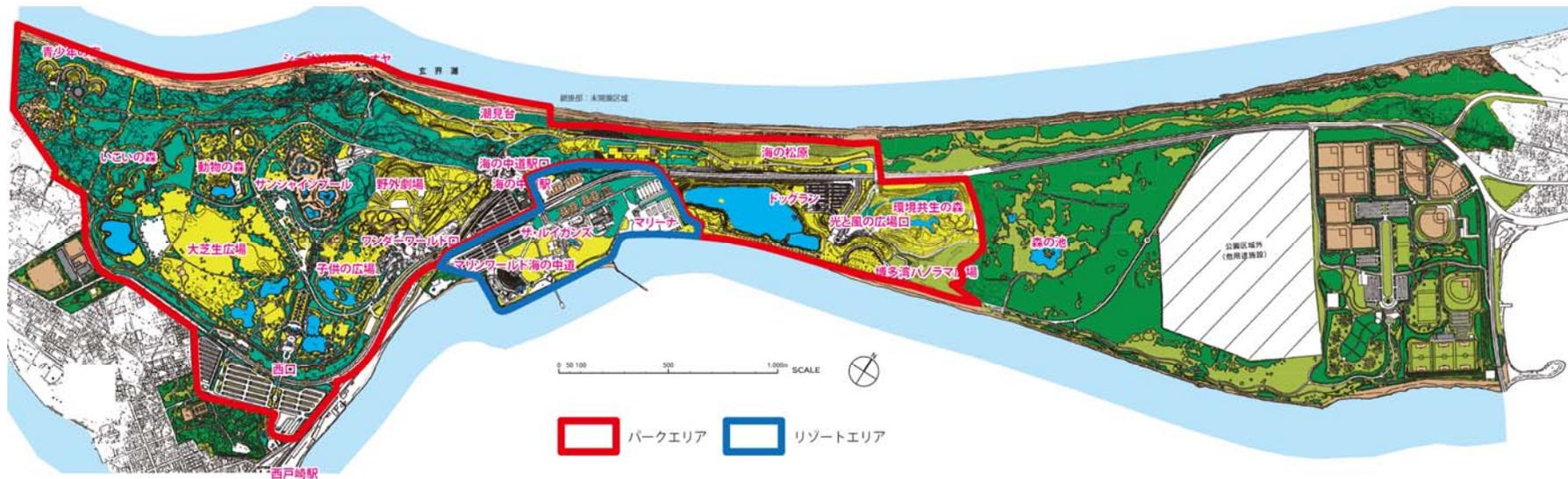
- ・主なイベント  
「みんなで森をつくろう」  
「みんなで農体験」  
「海と森のエコツアー」  
「うみなか自然発見塾（サマースクール）」  
「秋の虫みつけ」



〈みんなで農体験〉

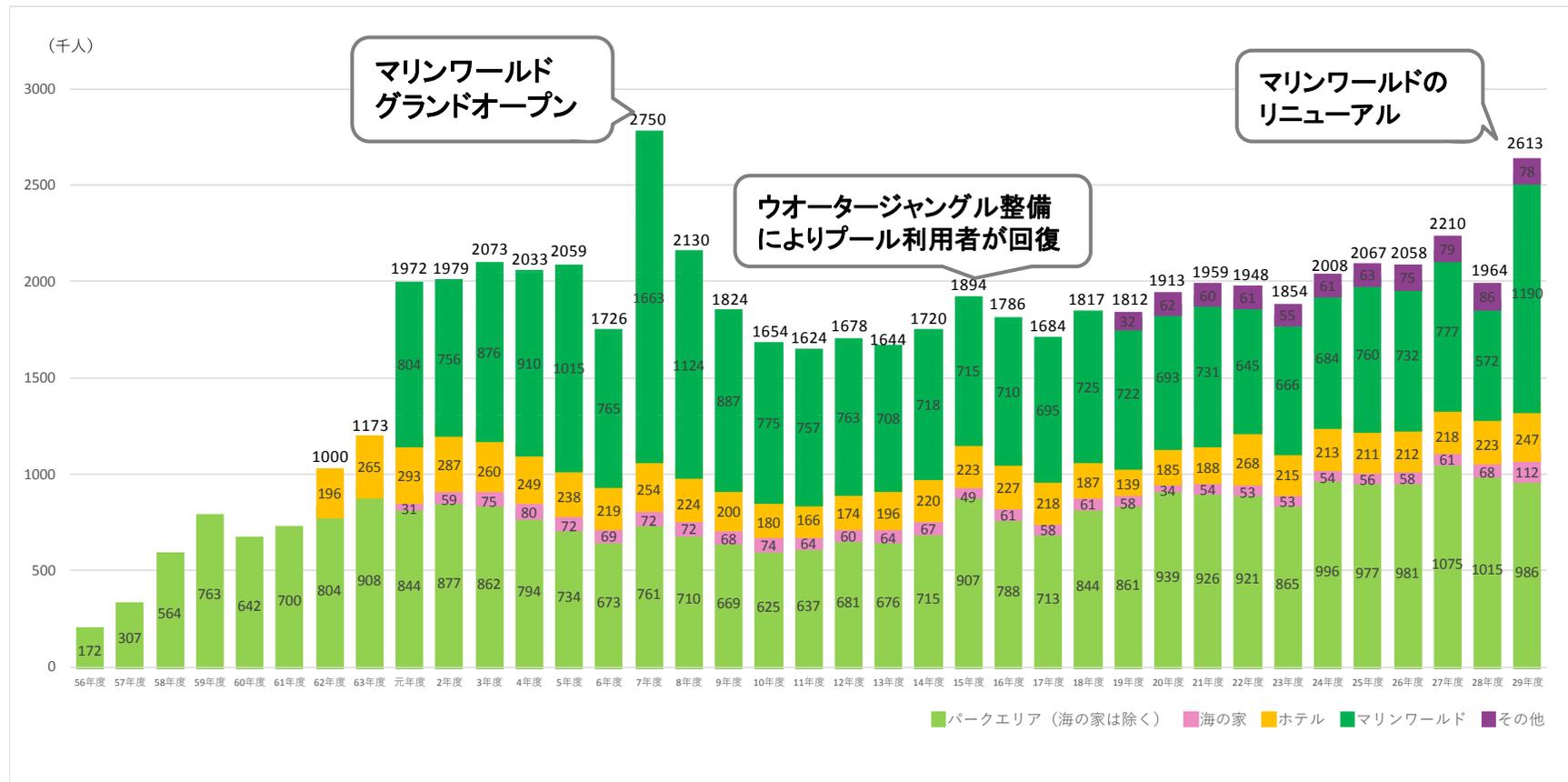
# 有料区域・無料区域

- 本公園は、入園料を徴収している「パークエリア」と、無料区域である「リゾートエリア」があります。リゾートエリアには、マリンワールド、ホテル等があり、施設単位で料金を徴収しています。



# 本公園の利用状況

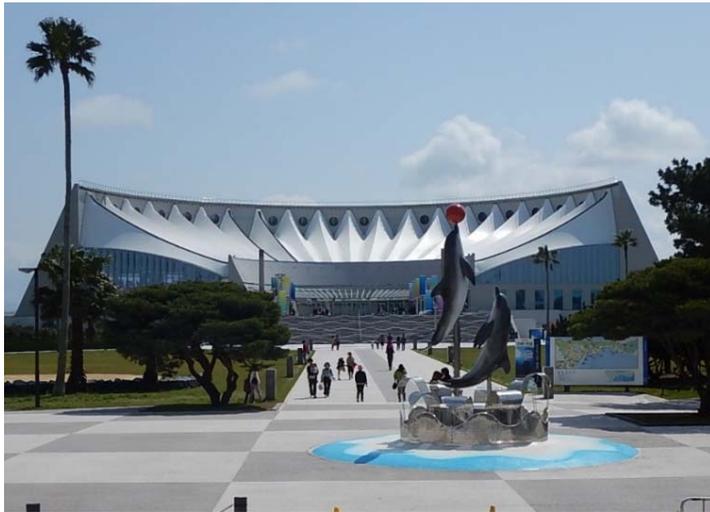
- 公園全体の利用者数は、200万人前後で推移しており、近年は概ね増加傾向にあります。



# ～本サウンディング調査の背景・目的～

# 背景1:これまでの民間事業者との連携の取組

- 本公園では、広域的なレクリエーション需要に対応できる多様なサービスを提供するため、これまでも民間事業者のノウハウや資金を活用した施設整備、管理を進めてきました。
- 国営公園初のPFI事業として、平成28年度からマリンワールド海の中道が、平成30年度からザ・ルイガンズが運営開始しています。



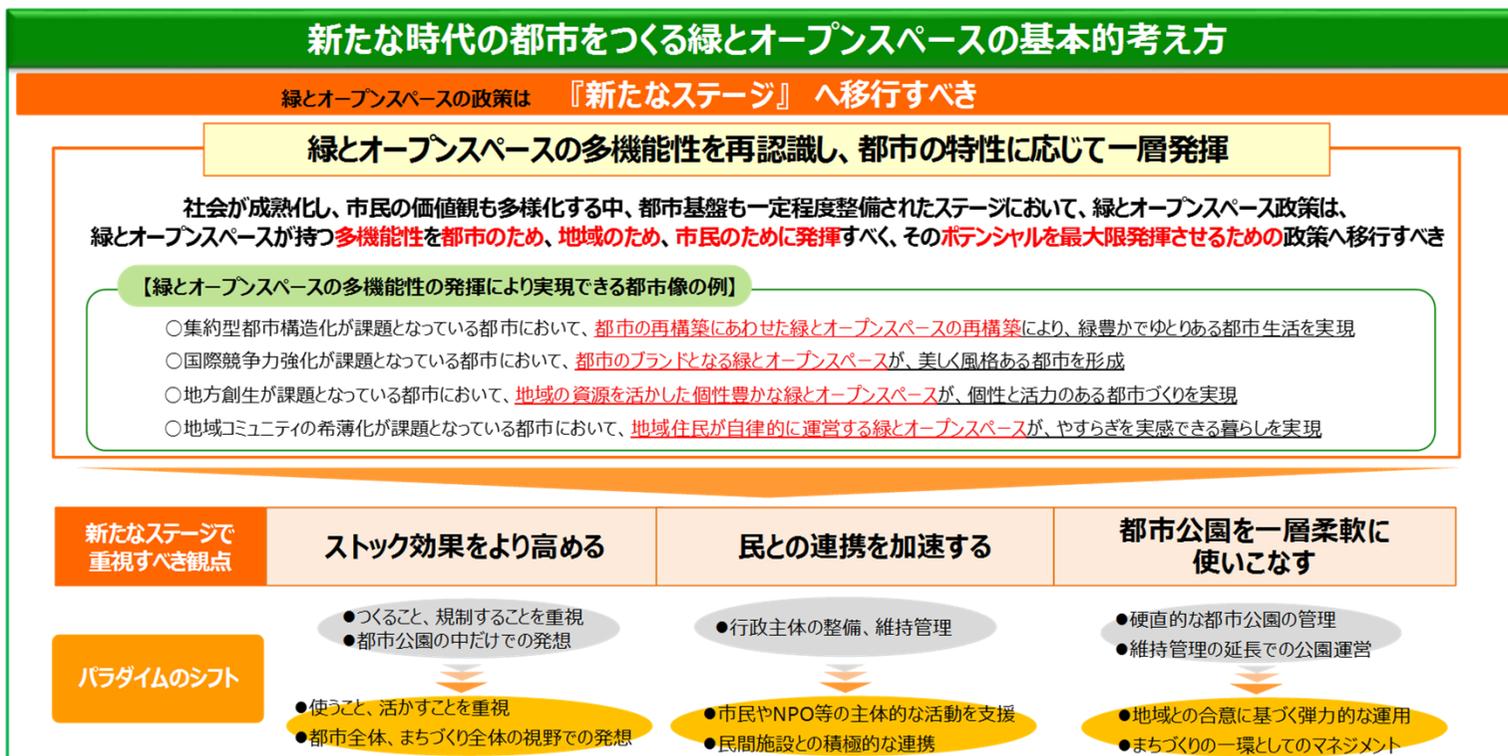
【マリンワールド海の中道】



【ザ・ルイガンズ(ホテル)】

## 背景2: 都市公園全体の民間事業者との連携の動き

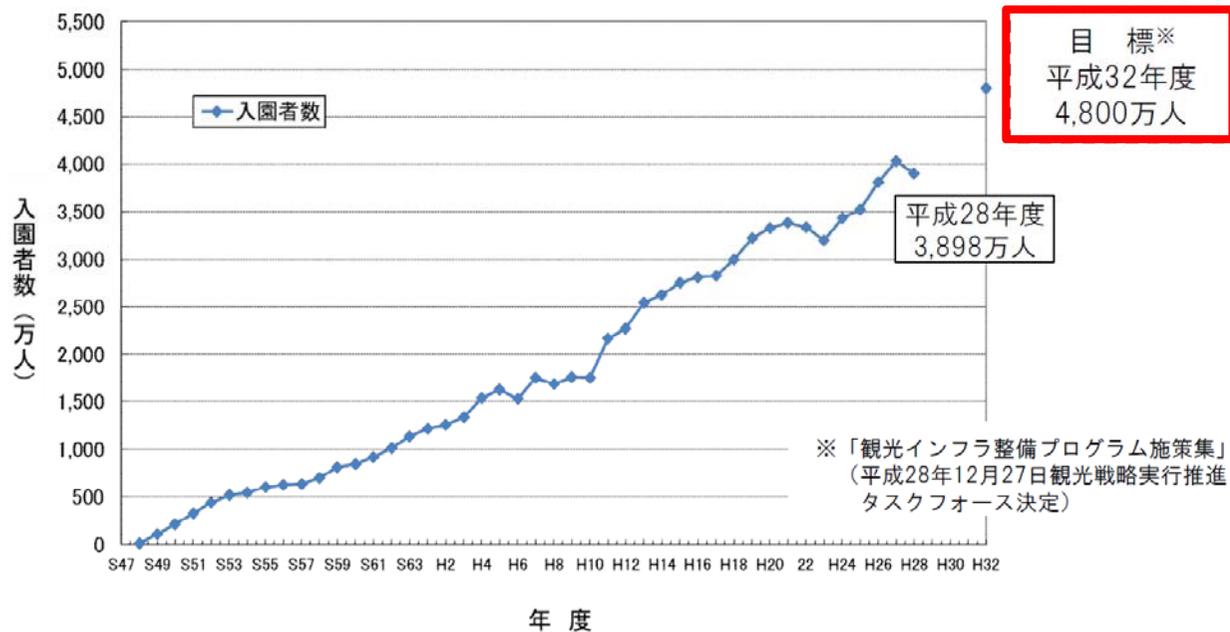
- 都市公園の今後のあり方についてとりまとめた「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」最終報告書（H28.5）では、「ストック効果をより高める」、「民との連携を加速する」、「都市公園を一層柔軟に使いこなす」の3つを重視する新たなステージへ移行すべきと提言されています。
- このような背景から、平成28年に都市公園法が改正され、厳しい財政状況の中で、都市公園を適切に維持・管理するとともに、民間事業者との連携による質の高いサービスを提供していくため、公募設置管理制度（Park-PFI）の創設等の制度の充実が図られています。



# 背景3: 国営公園全体の動き

- 国土交通省では、**国営公園等を訪れる入園者数**（全国集計）を平成32年度に**4,800万人**とすることを目標としています。
- また、国営公園の利用促進を図るため、平成30年4月より、子ども料金の無料化や団体料金の適用範囲の拡大などの**入園料の改定に関する施行**を実施しています。

## 【入園料改定(試行)の概要】



【国営公園 入園者数の推移と目標値(全国)】

1. 試行期間  
平成30年度(1年間)を予定

2. 主な試行内容

	現状
子ども入園料	80円
大人一般入園料※	410円
団体料金	20名以上が対象
年間パスポート	一の公園で使用可能
2日間通し券	(設定無し)

※シルバー料金は変更なし

試行
無料
450円
公共交通機関や旅行会社等が販売する旅行商品に団体料金を適用
入園料を徴収する全ての国営公園で使用可能
新たに設定(大人一般500円等)

# 本調査の目的

- 海の中道海浜公園は、これまでも他に先駆けて官民連携により整備、管理を行ってきた公園であり、**官と民とがそれぞれの得意分野で力を発揮することで発展**してきた国営公園です。
- 今後も、これまでの実績を活かし、公園の魅力をより一層高めるため、官民連携による都市公園の整備、管理の**新たなステージを牽引**するような先導的な取組を進めていきたいと考えています。
- このため、上記趣旨をご理解頂いた上で、**本公園のポテンシャルを活かし、より一層公園の魅力を高めるような事業アイデア**等についてご提案下さい。

これまでの官民連携の取組

都市公園全体の方向性

国営公園全体の動き



## 海の中道海浜公園の官民連携の方向性

- 公園の魅力の一層の向上(海の中道らしい魅力の創出・発信、ポテンシャルの発揮)
- 他の都市公園の参考となる、官民連携の新たなステージを牽引する先導的な取組の推進(大規模公園での新しいビジネスモデルの創出等)

# ご提案に当たって

○ 今回の調査は、民間事業者の皆様に、以下のような点についてお聞きし、今後の具体化につなげていくために行うものです。

- ・ 本公園を活用した事業アイデア（基本コンセプト、事業による効果 等）
- ・ 事業実施条件（想定している事業手法、スケジュール、投資規模 等）
- ・ その他（周辺地域との連携の考え方、取組に当たっての課題 等）

○ ご提案頂く内容については、本公園の魅力向上に資するものであれば、新たな施設の整備、既存の公園施設の活用、リニューアルなど、どのような提案でも構いません。（業種や業態についての制限はございません）

## 民間事業者の皆様が本公園で事業を行うことのメリット

- 本公園は、国の公共サービスとして、良好な自然環境を守り、活用しながら、全ての人にとって楽しく、使いやすい公園を目指して整備・管理を行っている国営公園であり、そのパートナーとして事業にご参画頂くことは、企業のブランド力の強化にもつながると考えます。
- 本公園は、成長ポテンシャルの極めて高い「成長可能性都市ランキング」第1位\*の福岡市に位置し、かつ市の中心部からも非常に近い立地であることから、民間事業者の皆様のアイデアを実現しやすい場所と考えます。

※野村総合研究所2017年7月発表

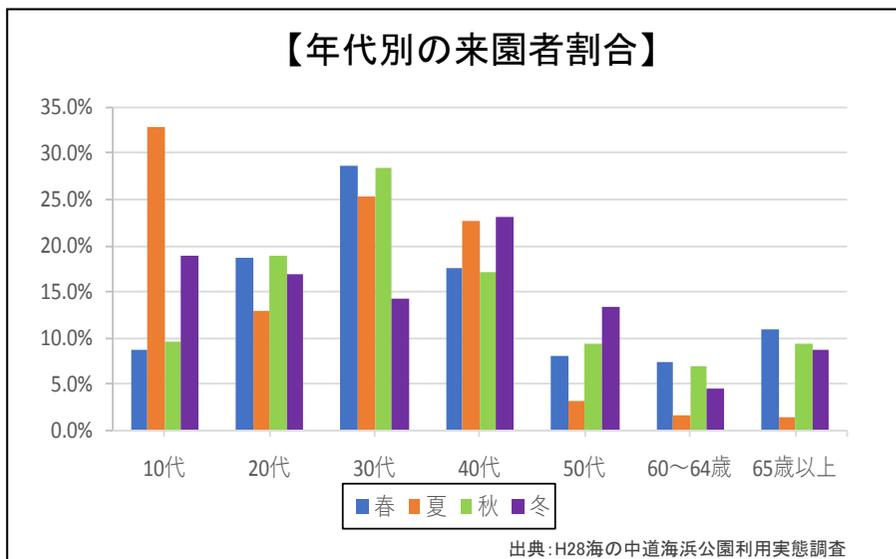
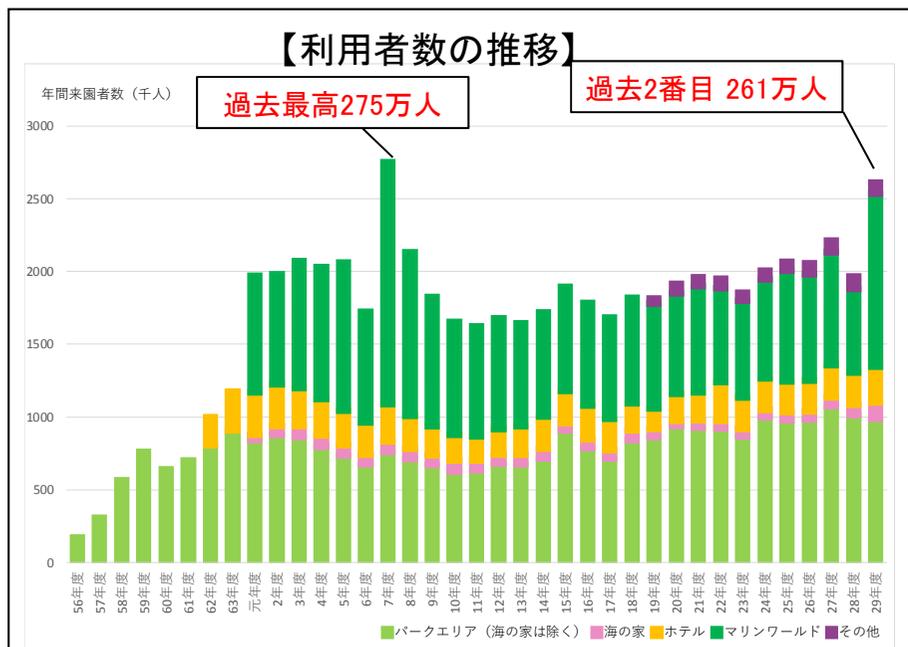
[https://www.nri.com/jp/news/2017/170705\\_1.aspx](https://www.nri.com/jp/news/2017/170705_1.aspx)

- ◆ 皆様からのたくさんのアイデア、意見をお待ちしています。
- ◆ なお、ご提案に当たっては、以下にまとめている公園の現状分析も参考にして頂き、本公園の強みを活かす、又は課題に対応するような提案を頂けると幸いです。

～本公園全体の現状分析～

# 本公園の強み: 集客力が高く、幅広い層に利用されている

- 年間約200万人が訪れる北部九州の主要な観光拠点です。
- ファミリー層を中心に、10代から65歳以上まで幅広い層が利用していることが特徴です。



## 【北部九州の主要な観光施設の利用者数】

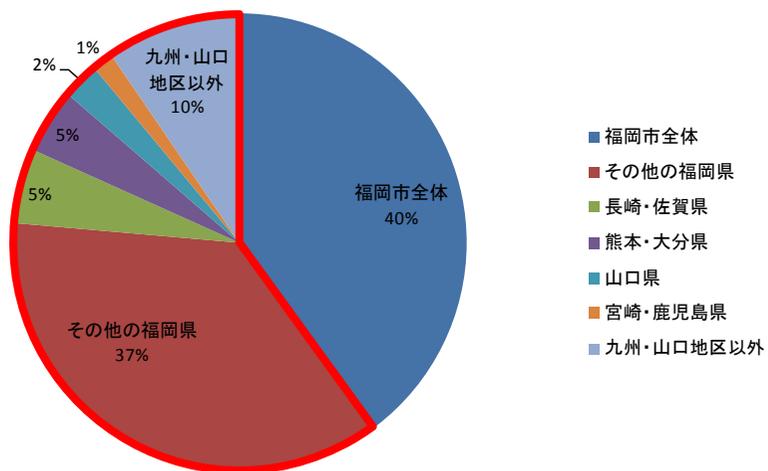
ハウステンボス H28.10-H29.9入館者数 <b>288万人</b> 出典: ハウステンボスHP	ヤフオクドーム H27入場者数 <b>317万人</b> 出典: 平成27年福岡市観光統計
福岡市動植物園 H27入場者数 <b>94万人</b> 出典: 平成27年福岡市観光統計	九州国立博物館 H27入館者数 <b>83万人</b> 出典: 平成27年福岡県入込客推計調査



# 本公園の強み：広域的な集客力

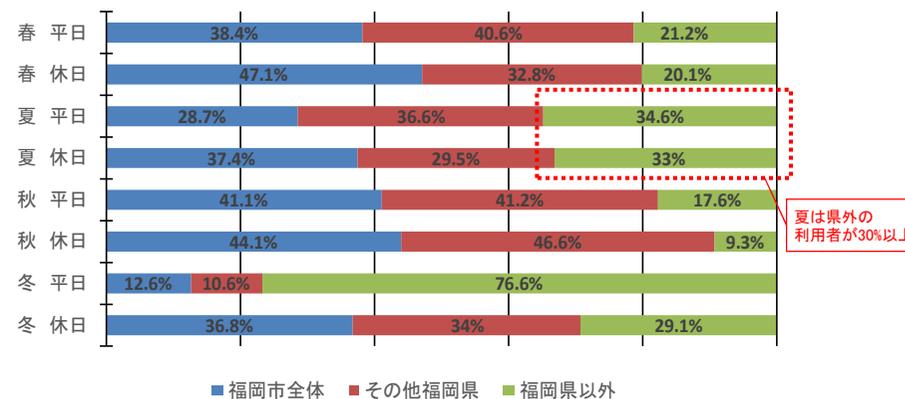
○ 福岡市外からの利用が6割を占める広域的な集客力を有する公園です。

【居住地別来園者割合(年間)】



出典：H28海の中道海浜公園利用実態調査

【居住地別来園者割合(季節別)】



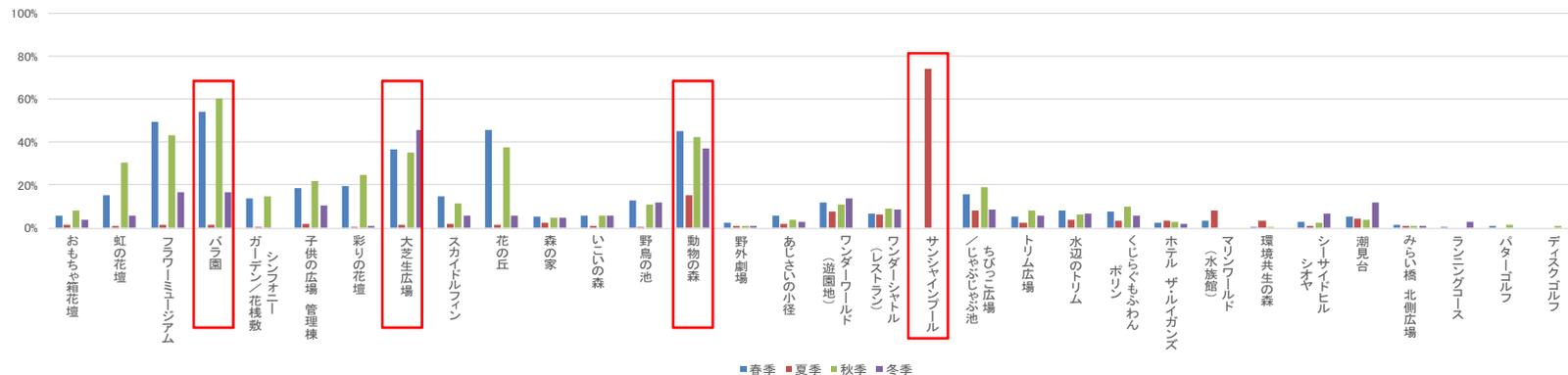
※冬は、調査日がクロスカントリー等の実施日だった影響で、県外利用者の割合が著しく高くなっている。

出典：H28海の中道海浜公園利用実態調査

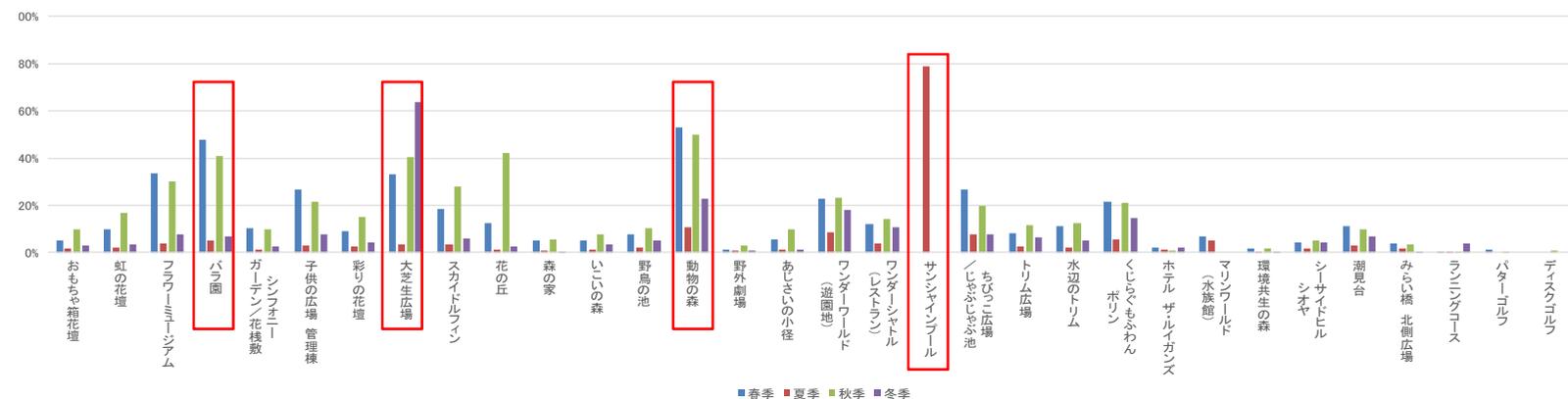
# 本公園の強み: 広大な空間を活かした多様な施設

- 利用者へのアンケート調査の結果、公園内で利用率が特に高い施設は、**バラ園**、**動物の森**、**大芝生広場**、**サンシャインプール**（夏期のみ）であり、これらは**当公園の主たる魅力**となっている施設と考えています。

（従って、これらの施設を廃止して代わりに新たな施設を設置することは考えていませんが、これらの施設の魅力をより高める提案は歓迎です。）



【平日】



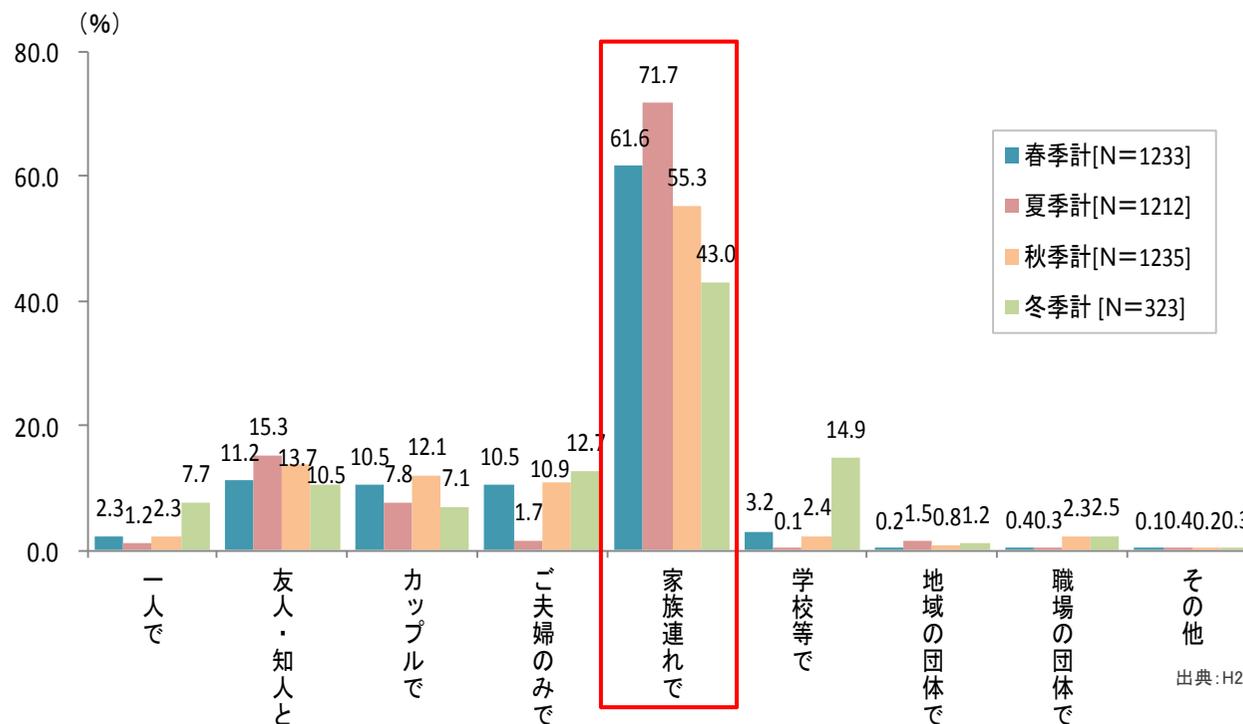
【休日】

出典: H28海の中道海浜公園利用実態調査

# 本公園の課題: 家族連れ以外の潜在的な利用者層への訴求

- ファミリー層の利用割合が著しく高いことは公園の強みでもありますが、一方で家族連れ以外の利用者にとって本公園は充分魅力を発揮できていないこととなります。
- 家族連れ以外の利用者層にどう訴求していくかということも課題と考えています。

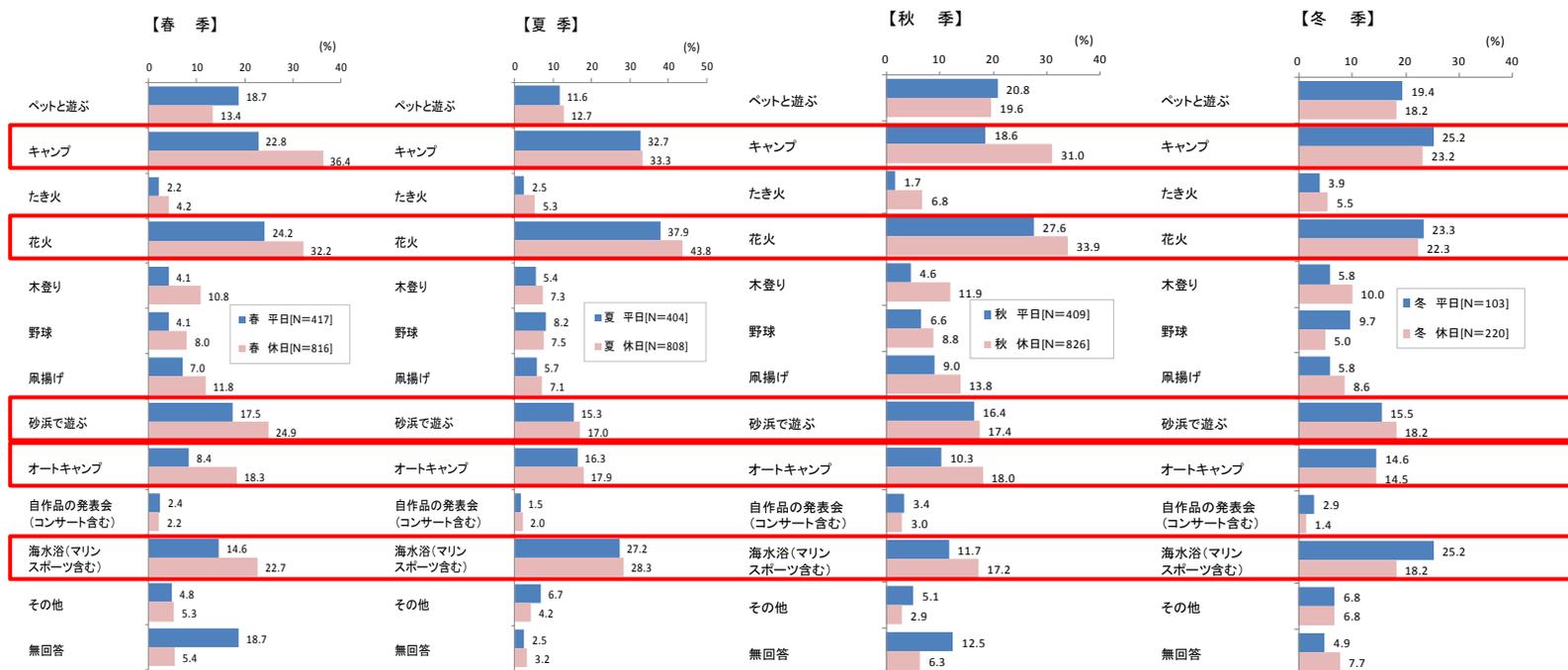
【季節別でみた同伴者の状況】



出典: H28海の中道海浜公園利用実態調査

# 本公園の課題: 海浜公園としてのポテンシャルの活用

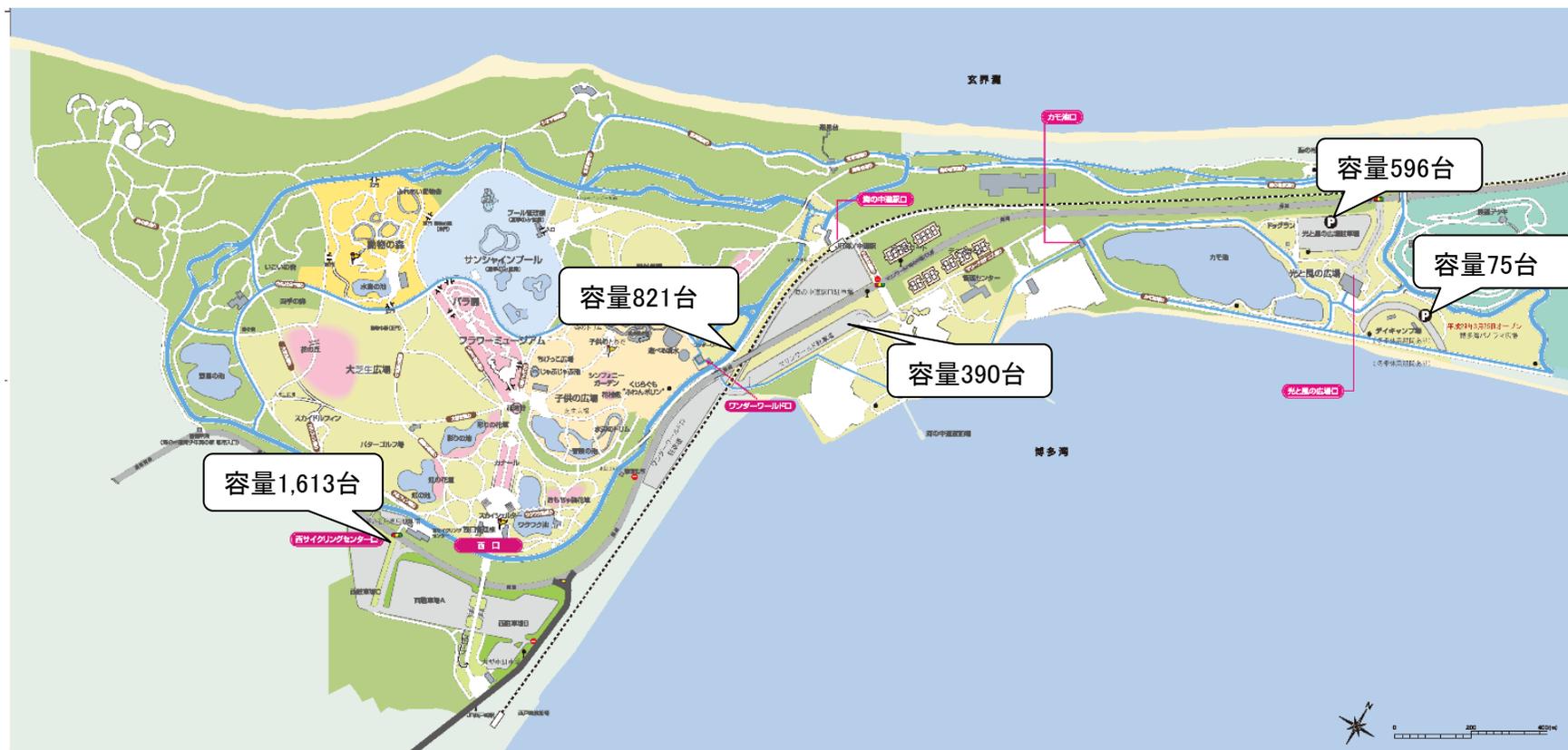
- 利用者からは、キャンプや花火といったアウトドア・夜間の利用や海浜レクリエーションに対する要望が多く寄せられていますが、安全管理や自然環境の保全、周辺地域の同種事業者への配慮等から、これまで本公園では充分対応できていません。
- 一方、海浜公園としてのポテンシャルを十分に発揮するためには、これらの利用ニーズに対しても課題を一つずつクリアしながら対応していくことが必要と考えています。



【海の中道海浜公園でしてみたいこと】

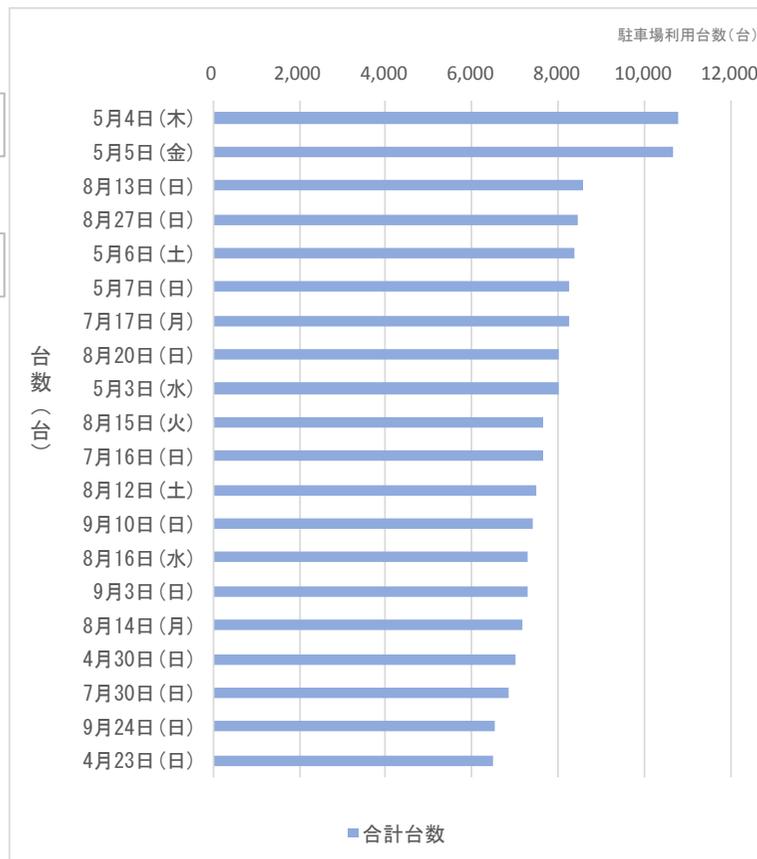
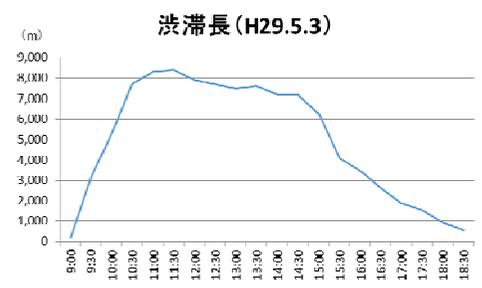
# 本公園の課題：繁忙期の利用集中への対応

- 公園の駐車場は、マリンワールド駐車場（390台）、海の中道駅ロ・ワンダーワールド口駐車場（821台）、西口駐車場（1,613台）、光と風の広場駐車場（596台）、デイキャンプ場駐車場（75台）であり、**合計3,495台分の駐車場が整備**されています。



# 本公園の課題：繁忙期の利用集中への対応

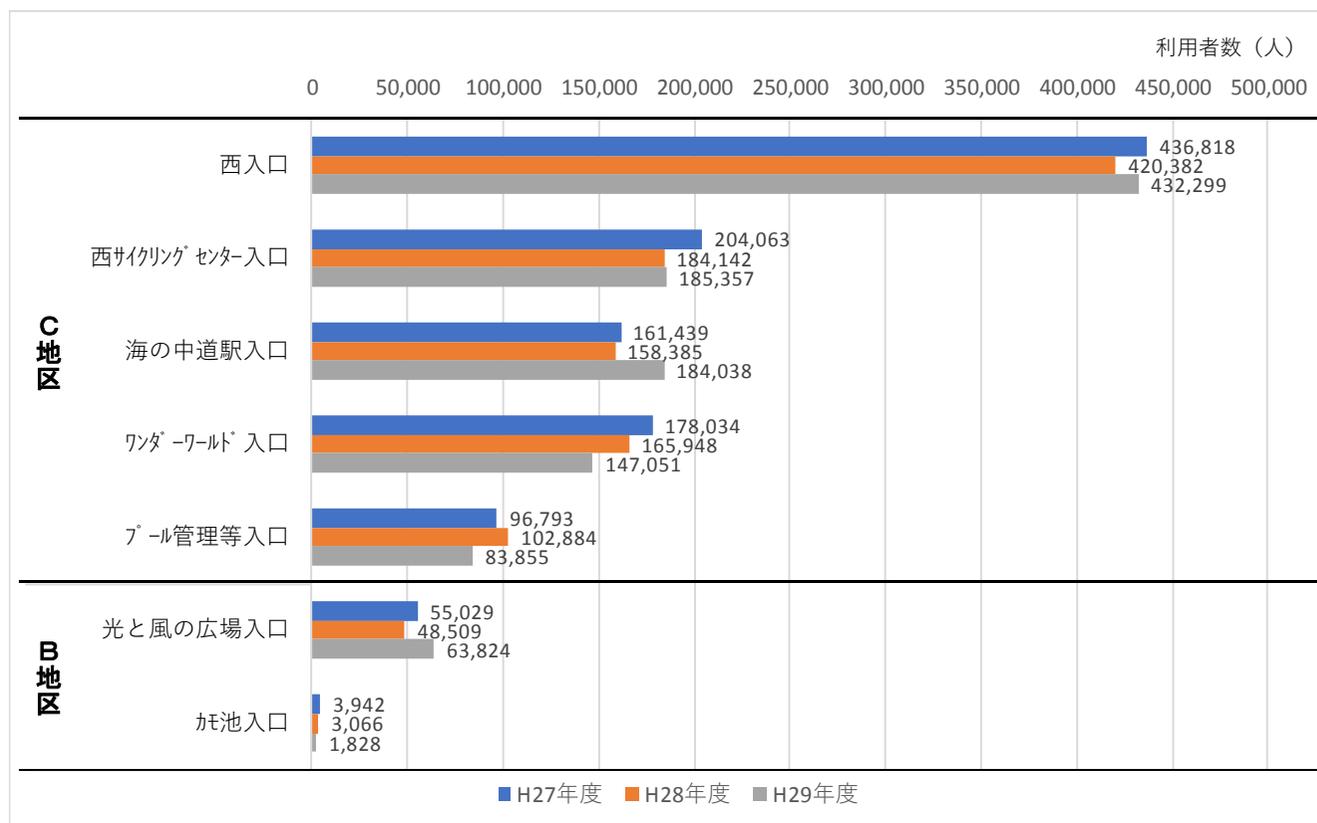
- 特にGWや夏期を中心に駐車場が混雑し、渋滞が発生しており、繁忙期への利用の集中、駐車場対策も課題となっています。



【駐車場利用台数 上位20日】

# 本公園の課題：利用の偏りへの対応

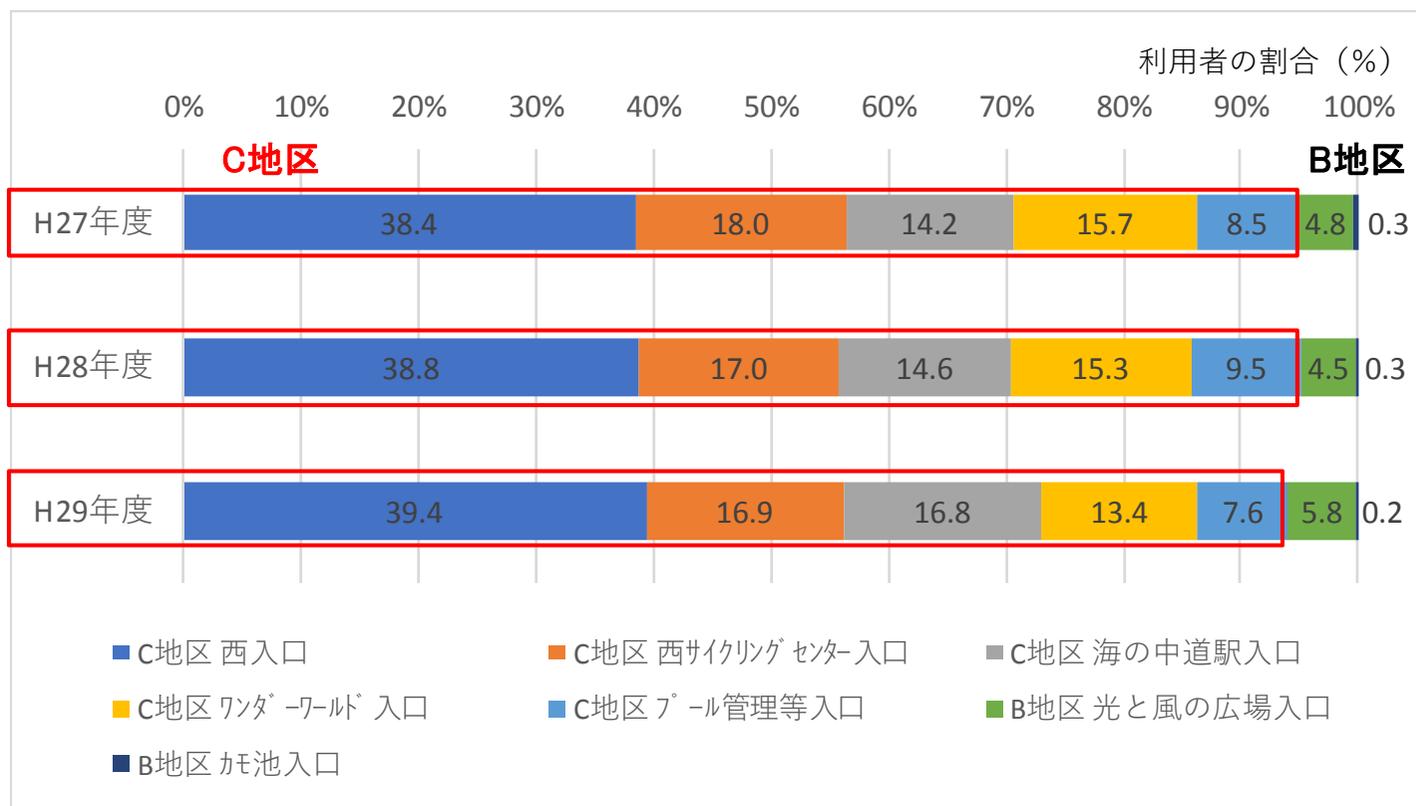
- 本公園は、昭和56年の開園当初から供用しているC地区のエリアに施設が集中し、公園利用者の概ね9割強がC地区の入口から入園しています。
- B地区は環境との共生をテーマとした地区であることから、多くの利用者を想定した施設を整備していないことも要因ですが、ある程度公園内での利用の分散に配慮することも必要と考えています。（D地区は入園ゲートなし）



【ゲート別利用者数】

出典：海の中道海浜公園利用実態調査

# 本公園の課題：利用の偏りへの対応

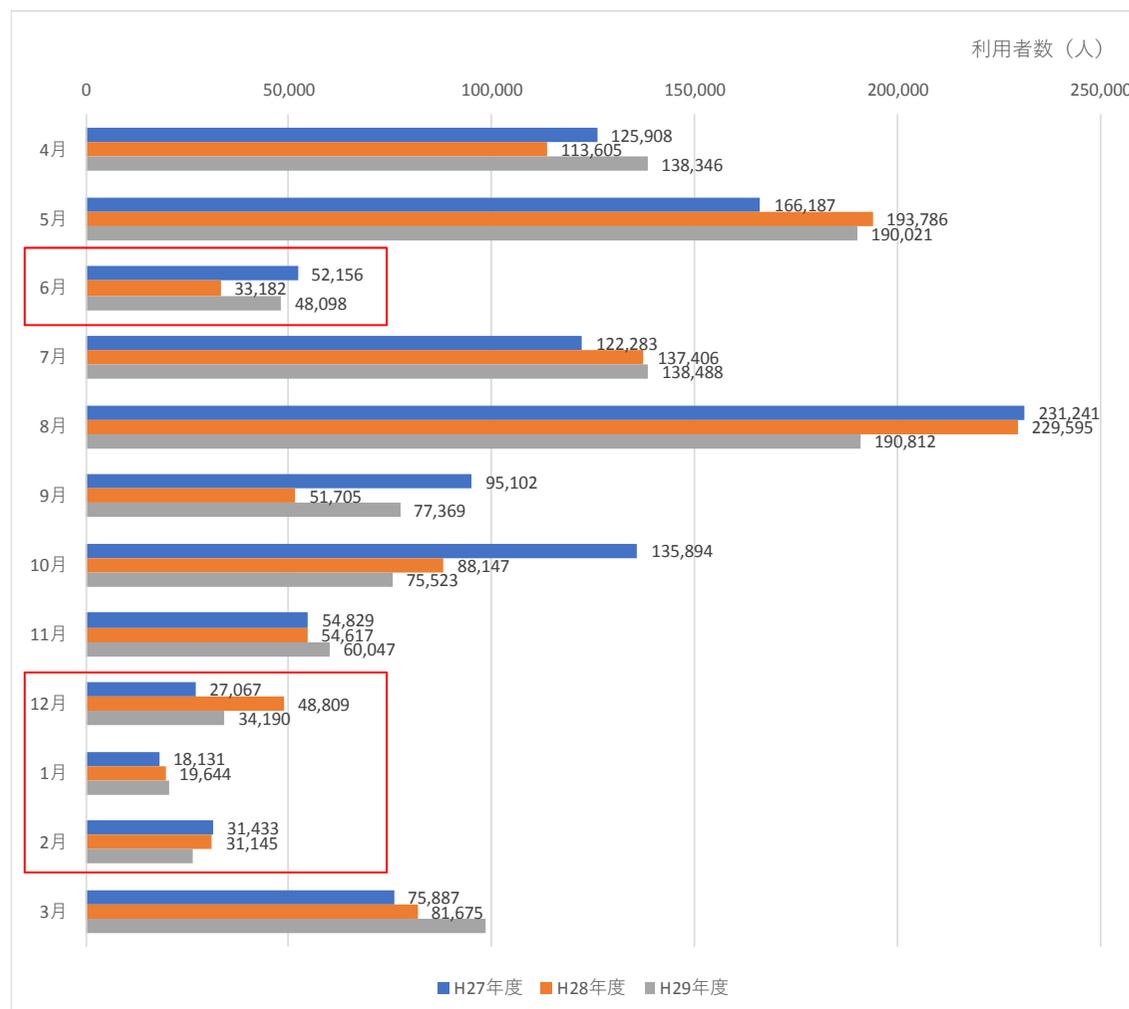


【ゲート別利用者数の割合】

出典：海の中道海浜公園利用実態調査

# 本公園の課題：利用の偏りへの対応

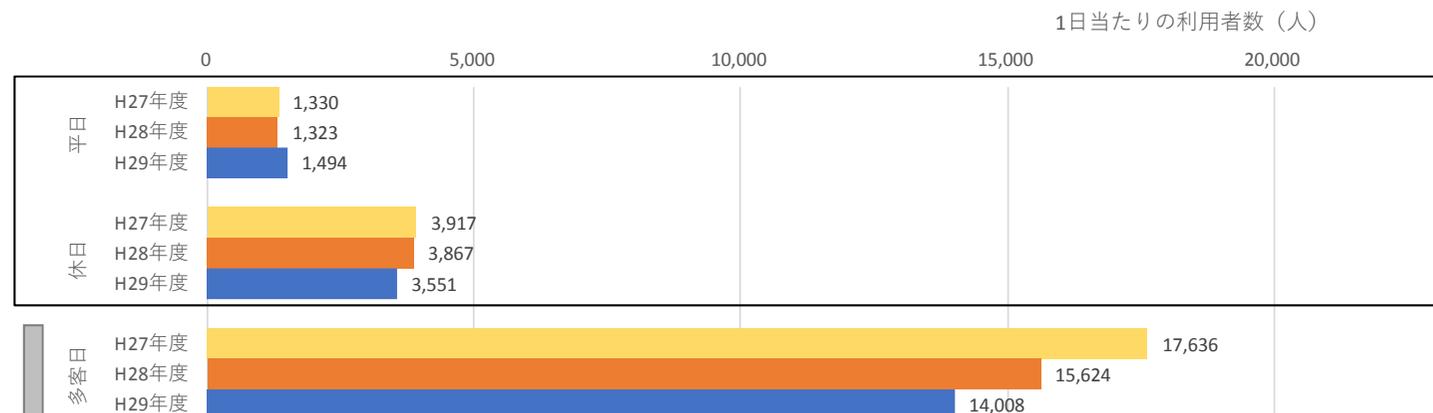
- 季節や天候による利用への影響が大きく、冬場や雨天時の利用を促進することも必要と考えています。



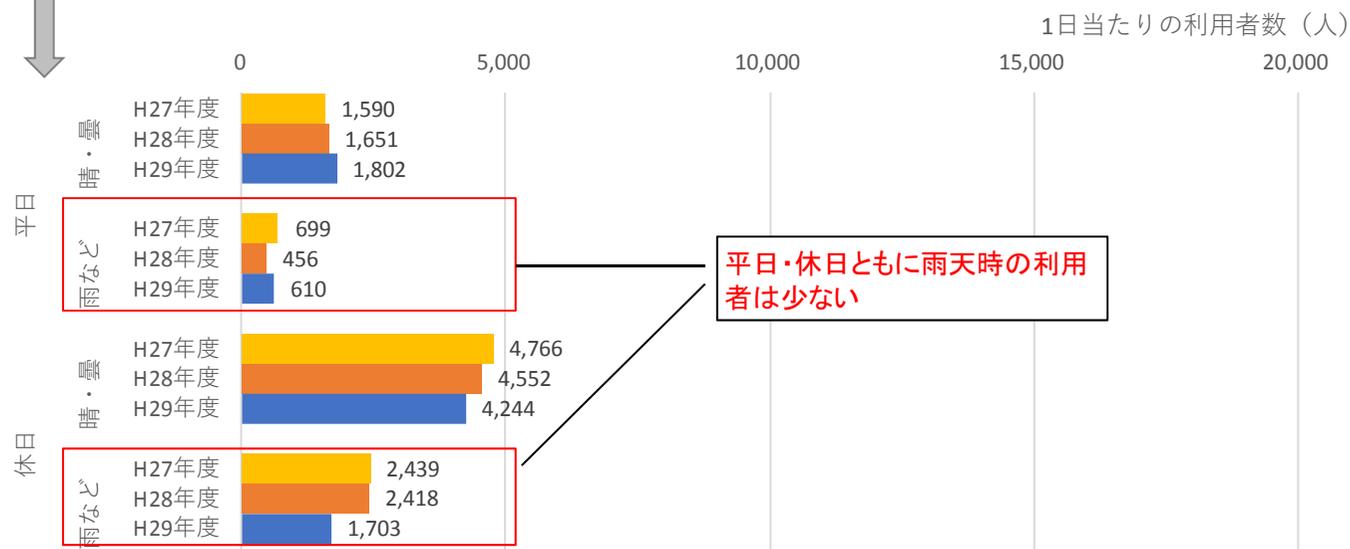
【月別利用者数】

出典：海の中道海浜公園利用実態調査

# 本公園の課題：利用の偏りへの対応



【平日・休日・多客日別の利用者数(1日あたり)】



平日・休日ともに雨天時の利用者は少ない

【平日/休日の天候別利用者数(1日あたり)】

【補足事項】

※多客日  
1万人以上の利用者があった日を多客日とした。

※天候区分

天候記録で“雨”“曇のち雨”“曇時々雨”など、雨の記載がある日を「雨など」と設定した。  
ただし、“晴れ一時雨”などの『一時雨』は、利用者が多い日もあるため、突発的・短時間的な雨の可能性が高く、『一時雨』は「晴れくもり」に分類した。

# ～各地区ごとの現状分析～

# B地区の現状分析

- 計画面積：110.0ha（うち供用面積：46.0ha）
- 地区のテーマ：樹林とピクニックの広場
- 基本理念：豊かな自然との触れあいを通して心身のリフレッシュを図ることにより、国民の健康と活力を育む場とする
- 整備状況：①カモ池周辺、②環境共生の森、③デイキャンプ場・パノラマ広場など自然を主体とした整備を行っている。（④森の池は整備中）



【B地区】

# B地区の強み

- 民家が離れており、騒音等の苦情の心配が少ない（全体）
- 管理上、24時間開園が比較的容易（全体）
- 博多湾を臨む開放的な空間を活用したレクリエーションが可能（①、③）
- カモ池の周回利用が可能（①）
- 環境学習フィールドとしての整備がある程度整っている（②）



OUTDOOR PARK in UMINAKA

# B地区の課題

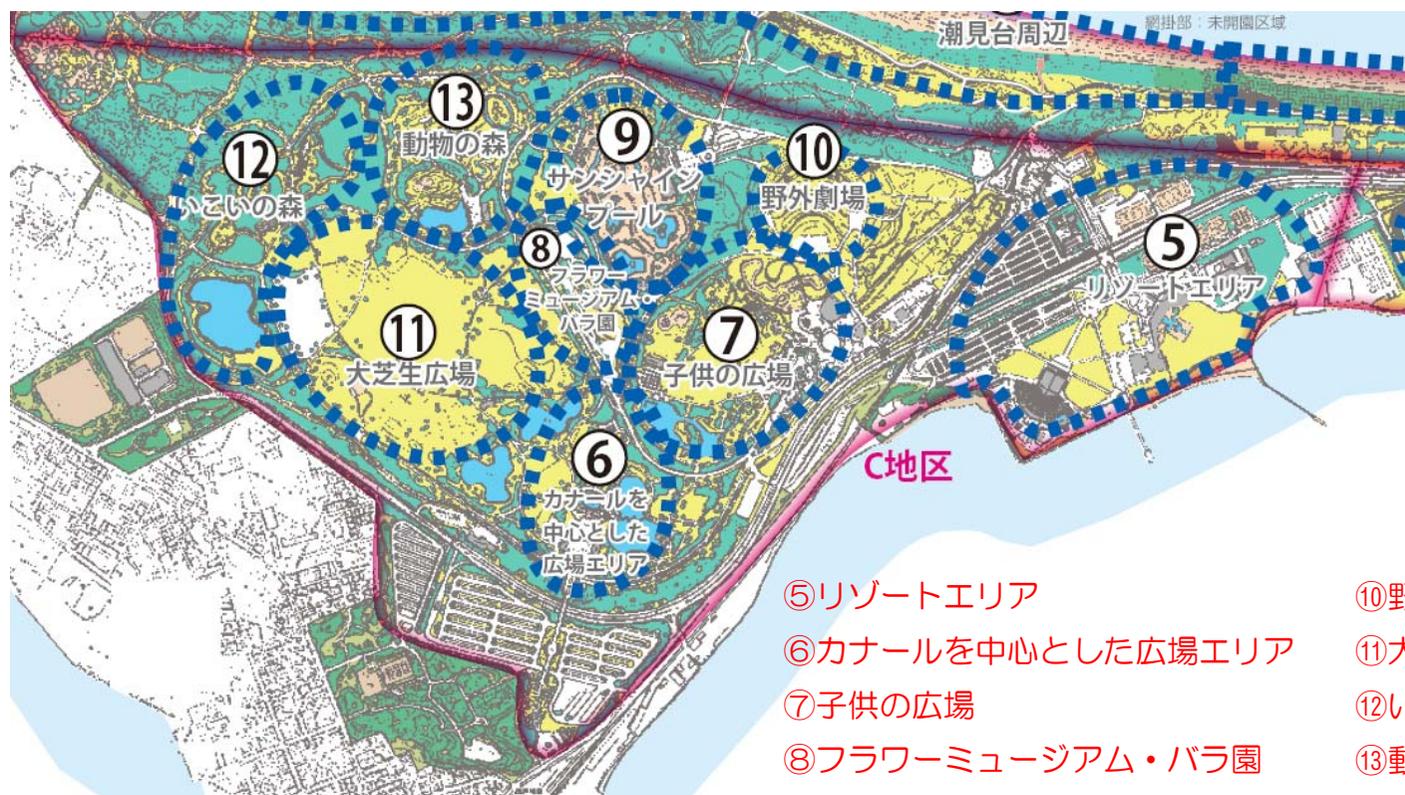
- 公共交通機関でアクセスするには距離がある（JR海ノ中道駅から遠い）
- 他地区に比べて利用者が少なく（光と風の広場ゲート入園者数：年間約5～6万人）、魅力向上が必要
- 単発的なイベントはあるが、定常的にスポーツが楽しめる環境整備が不十分
- デイキャンプ場はあるが、宿泊利用についても考慮が必要
- 保安林の指定がある（④）



【B地区】

# C地区の現状分析

- 計画面積：195.5ha（うち供用面積：190.7ha）
- 地区のテーマ：樹林と文化・いこいの広場
- 基本理念：施設型のアクティブな活動を楽しむことができ、松林の林間と大芝生広場でのびのびと自然を楽しむことができる場とする



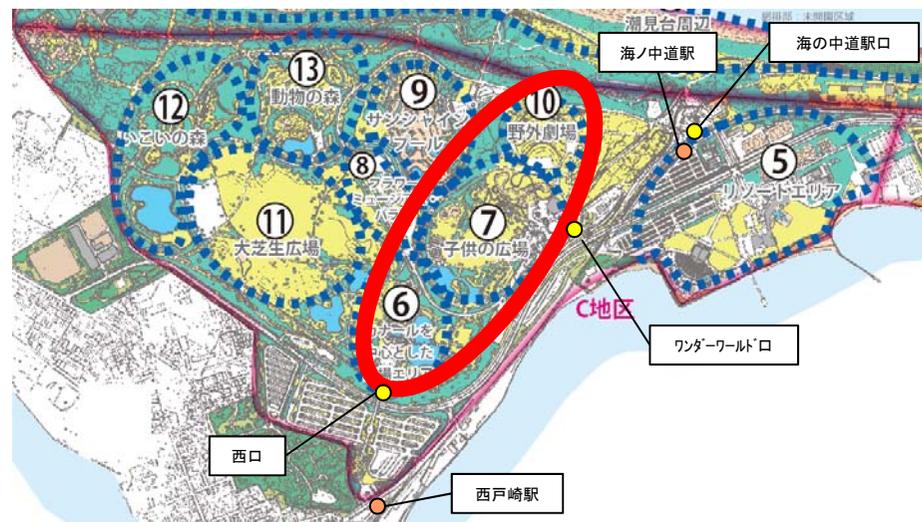
【C地区】

# C地区(⑥、⑦、⑩)の強み

- 入園ゲート・公共交通機関の駅に近い(⑥:西口、⑦ワンダーワールド口、⑩海の中道駅口)
- アスレチックや大型遊具、有料遊戯施設など子ども向けのコンテンツが多く集積(⑦)



- 野外フェスティバル等の賑わいイベントの開催(⑩)



## 課題

- 本公園内で最も集客があり、メインエントランスにふさわしい目玉、景の創出が必要(⑥)
- 時代の変化に応じた遊戯施設の魅力の向上が必要(⑦)
- 野外フェスなどの時以外活用されておらず利用促進が必要(⑩)

# C地区(⑧、⑨、⑪、⑬)の強み

○ 本公園内で利用率の高い施設が集中しているエリアであり、公園の魅力の主たる部分を担っている



⑧バラ園、フラワーミュージアム



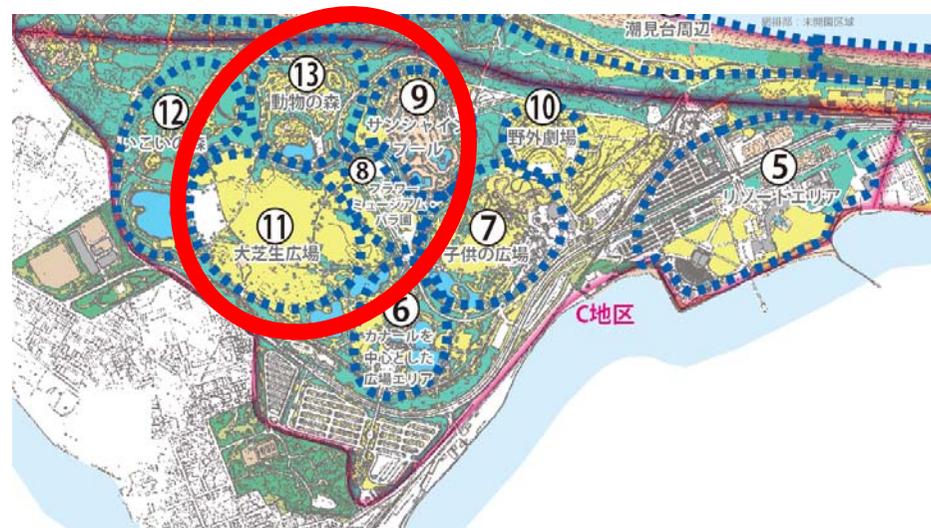
⑨サンシャインプール



⑪大芝生広場



⑬動物の森



## 課題

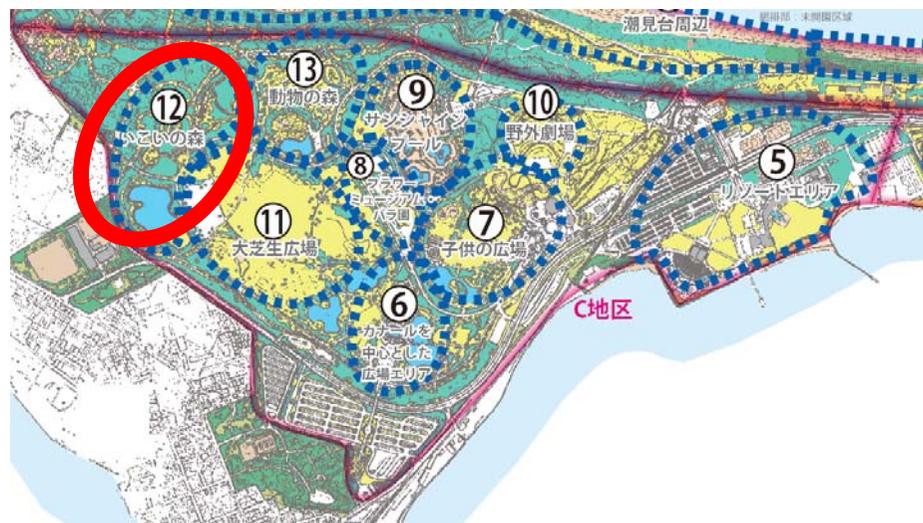
○ 入園ゲートから距離があり、アクセスの利便性が課題(⑨、⑬)

# C地区(⑫)の強み

- 園内で採れた自然の材料を使った木工作体験（森の家）



- いこいの森や野鳥の池など森林資源の活用ができる



## 課題

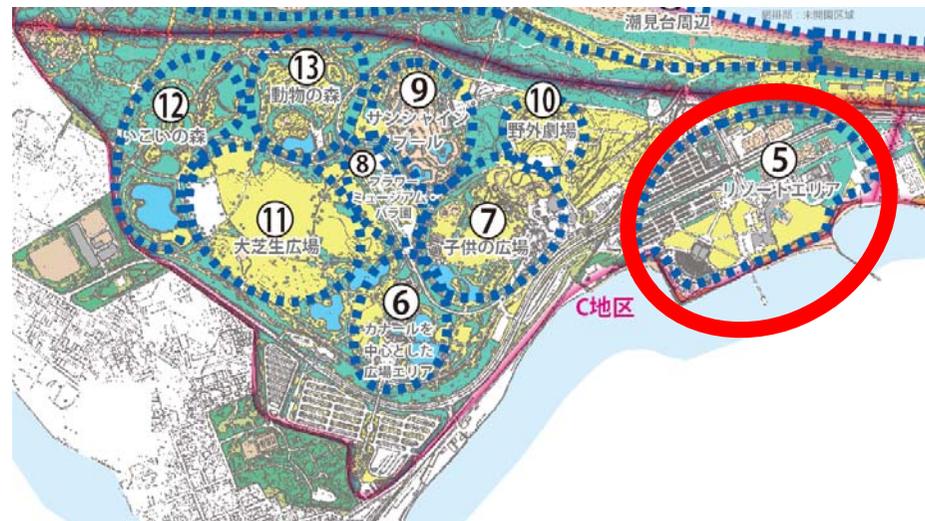
- 入園ゲートから距離があり、アクセスの利便性が課題
- 利用者が少なく、魅力向上が必要

# C地区(⑤)の強み

- 博多湾を臨む雄大な景観



- マリンワールド海の中道やザ・ルイガンズといった多様な集客施設が集中



- 入園料を徴収していない無料区域 (施設は有料)

## 課題

- 海の中道渡船場があるが、アクセス便が少ない (博多湾の対岸からの船便)

## D地区の現状分析

- 計画面積：156.9ha（うち供用面積：58.2ha）
- 地区のテーマ：海辺といこいの広場
- 基本理念：強風や飛砂を防止するためクロマツ林や海浜植生を保全しつつ、魅力的な景観資源や海浜部特有の自然環境を活かした利用を楽しむ場とする
- 整備状況：現在、⑭、⑮エリアを供用している（⑯、⑰は未供用）。⑭と⑮の境界に休憩施設として「シーサイドヒルシオヤ」が、⑮に玄界灘の景色を見ることができる「潮見台」がある。
- 国定公園区域の指定：玄海国定公園に指定されている区域を含んでいる（主に⑮～⑰）



【D地区】

# D地区(⑭、⑮)の強み

- 玄界灘を臨む白砂青松の景観、豊かな自然環境を有している。



## 課題

- 現在、海浜植生の保全、復元のため、砂浜には立ち入りできないようにしているが、当地区の有効活用（海浜景観、海洋レジャー等）のため利用のあり方を検討していくことが必要
- 直接D地区に車でアクセスできるルートを設定せず、アクセスの利便性が課題

# 現状分析まとめ

公園全体		強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間約200万人が訪れるなど、集客力が高く、広域圏を含め、幅広い層に利用されている</li> <li>○ 広大な空間を活かして、魅力のある多様な施設（バラ園、動物の森、大芝生広場、サンシャインプール等）が存在する。</li> </ul>
		課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族連れ以外の利用者にとっても魅力的な公園としていくことが必要。</li> <li>○ 海浜公園としてのポテンシャル（海浜景観、海洋ゾウ等）を最大限活用していくことが必要。</li> <li>○ GWや夏休みなど繁忙期の利用の集中、C地区への利用の偏り等について対策が必要。</li> </ul>
B地区		強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 博多湾を臨む開放的な空間で、カモ池、環境共生の森等を活用したアウトドア、水上スポーツ等のレクリエーションが可能である。</li> <li>○ 騒音等の苦情の心配が少なく、24時間開園も比較的容易である。</li> </ul>
		課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者増に向けた魅力向上が必要。</li> <li>○ 単発的なイベントはあるが、定常的にスポーツが楽しめる環境整備が不十分</li> <li>○ デイキャンプ場はあるが、宿泊利用についても考慮が必要</li> </ul>
C地区	子供の広場・カナル周辺	強み	○ 入園ゲートや公共交通機関の駅からのアクセスが良く、集客力が高い。遊戯施設など子ども向けのコンテンツが多く集積している。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ メインエントランスとして本公園の目玉、景の創出が必要</li> <li>○ 時代の変化に応じた遊戯施設の魅力の向上が必要</li> </ul>
	いこいの森周辺	強み	○ いこいの森や野鳥の池など森林資源の活用ができる
		課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 入園ゲートから距離があり、アクセスの利便性が課題</li> <li>○ 利用者が少なく、魅力向上が必要</li> </ul>
D地区		強み	○ 玄界灘を臨む白砂青松の景観、豊かな自然環境を有する
		課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海浜植生の保全等に配慮しつつ、海浜景観、海洋ゾウ等、有効活用のあり方について検討が必要</li> <li>○ 直接D地区に車でアクセスできるルートを設定せず、アクセスの利便性が課題</li> </ul>